

作成日：2016年10月19日

改訂日：2016年10月19日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：

製品名称：セメダイン 防水スプレー除菌・消臭

製品番号(SDS NO)：GJ3220-10

供給者情報詳細

供給者：セメダイン株式会社

住所：東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー

担当部署：環境安全衛生部

電話番号：03-6421-7413

FAX：03-6421-7416

緊急連絡先電話：03-6421-7413

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

エアゾール：区分 1

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：区分 2A

生殖毒性：区分 2

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分 1(中枢神経系、腎臓、全身毒性)
：区分 3(気道刺激性)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)：区分 2(脾臓、血管、肝臓、血液系)

環境有害性

水生環境有害性(急性)：区分 2

(注)記載なきGHS分類区分：該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語：危険

危険有害性情報

極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール

高压容器：熱すると破裂のおそれ

強い眼刺激

呼吸器への刺激のおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

中枢神経系、腎臓、全身毒性の障害

長期にわたる、又は反復ばく露による血液系、脾臓、血管、肝臓の障害のおそれ

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。

裸火又はほかの着火源に噴霧しないこと。

使用後を含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを避けること。
取扱後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

火災の場合には消火に泡、噴霧水、炭酸ガスを使用すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
ばく露又はその懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の診断/手当を受けること。
特別な処置が必要である。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当を受けること。

【保管】

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。
日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。

【廃棄】

内容物や容器を、各都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

GHS分類に該当しない他の危険有害性

高温ガス製品のため、加熱、衝撃などにより破裂する危険がある。
高温による内圧上昇により破裂の恐れがある。
内容液中のシリコーンは、水及び酸、アルカリ化合物と穏やかに反応して(加水分解)、1-ブタノール、メタノールを生成する。

環境への影響

地球温暖化の原因である温室効果ガスの一つであるが、通常の状態では環境への影響はない。
家庭用エアゾール防水スプレー等の安全性向上のための自主基準

用途区分：撥水

使用対象物：繊維製品

対象物質：フッ素変成シリコーン樹脂

注意：

吸い込むと有害。必ず屋外で使用。
必ず注意を読んでからご使用ください。
必ずマスクを着用してご使用ください。

【注意事項】

吸い込むと嘔吐・呼吸困難・肺障害などを引き起こすことがあるため、下記の注意を必ず守ってください。
スプレー噴霧粒子を吸い込むと有害です。
万一多量に吸い込んだ(気分が悪くなった)場合には、新鮮な空気のもとへ移動し、気分が回復しないときは商品を持参し(可能であれば、商品を持参し)、医師の診察を受けてください。

【応急処置】

万一多量に吸い込んだ場合には、新鮮な空気のもとへ移動し、気分が回復しないときは医師の診察を受けてください。
眼に入った場合は、こすらずに大量の水で洗い、医師の診察を受けてください。
肌にかかった場合は、すぐに石けん水でよく洗ってください。
使用中に異常を感じた時は使用を中止し、医師の診察を受けてください。

【使用方法】

スプレー噴霧粒子は眼や肌を刺激することがあるので、かからないようにしてください。
スプレー噴霧粒子を吸い込まないように風向きに注意して使用してください。
顔の近くで使用しないでください。
着衣のままその衣服に直接スプレーをしないでください。
使用時にはマスクを着用するようにしてください。
人体に使用しないでください。

人体用ではないので、人に向けて使用しないでください。
子供の手の届かないところに保管してください。

【使用量】

室内で大量に使用しないでください。

【使用場所】

風通しのよい場所で使う。玄関先や車内など空気の溜まりやすい場所では使用しない。

屋外で風上から風下へ使用。

屋内・車内で使用しない。

スプレー噴霧粒子を吸い込まないように風向きに注意し使用してください。

スプレー噴霧粒子は吸い込むと有害なため、必ず屋外で使用してください。

室内・玄関や自動車内等狭い場所で使用しないでください。

風上に向かって使用しないでください。

ベランダ等で使用する場合、噴霧粒子が室内に流れて入り込まないように注意してください。

飲食物、食器、小児のおもちゃ等にスプレー噴霧粒子がかからないようにしてください。

乾くまで(30分以上)換気のよい場所に置いてください。

【使用対象者】

子供やペットは、衣類、布が乾くまで近づけないでください。

乳幼児・高齢者・肺等の呼吸器系機能が低下している人の周辺では使用しないでください。

乳幼児・子供には使用させないでください。乳幼児・子供の近くでは、使用しないでください。

肺に異常のある人は使用を避けるか、やむを得ず使用する場合は特に注意をしてください。

想定される非常事態の概要

高温による内圧上昇により破裂の恐れがある。

熱、火花又は炎で発火する可能性がある。

内容液は水路に排出されると環境に対して有害である。

吸入しない。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：

混合物

化学的特定名：防水スプレー

成分名	含有量(%)	CAS No.	化審法番号
イソプロピルアルコール	90-100	67-63-0	2-207

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

イソプロピルアルコール

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

イソプロピルアルコール

4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

蒸気、ガスなどを大量に吸い込んだ場合には、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が不規則か止まっている場合には人工呼吸を行う。呼吸しやすい姿勢で休息させること。

蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所で安静にし、医師の手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

付着物を布にて素早く拭き取る。

多量の水と石鹼(又は被扶養の洗剤)を使用して十分に洗い落とす。

溶剤、シンナーは使用しない。

直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。

また溶剤が全身にかかった場合は、流水/シャワー等で十分に洗い流す。
外観に変化がみられたり、痛みがある場合には医師の手当てを受けること。

眼に入った場合

清浄な水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないで、直ちに医師の診察を受ける。

自然に嘔吐が起きた場合、気道への吸入が起きないように身体を傾斜させる。

嘔吐物は飲み込ませないこと。

被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。

医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

応急処置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な保護具(有機溶剤用の防毒マスク等)を着用する。

火気及び着火源に注意する。医療スタッフにSDSを提示し、自身の保護措置にも気をつける。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

医師に対する特別な注意事項

情報なし

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

泡、散水又は噴霧水、炭酸ガス

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の危険有害性

火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。

極めて燃えやすい、熱、火花、火災で容易に発火する。

火災によって刺激性、毒性又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

引火性の高い液体及び蒸気。

特有の消火方法

直ちに消火器等で消火する。

指定の消火器を使用すること。

可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。

可能であれば、エアゾール容器を火元から遠ざける。

移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。

速やかに避難し、関係者以外は立ち入り禁止とする。

火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を十分に取り、

高温にさらされる製品容器には水等をかけて冷却する。

消火活動は十分距離をとって、風上から行う。

有毒なガス(CO、NO_x、Sox、フッ化水素(腐食性アリ)、フッ化合物等「10.安定性及び反応性」参照)の吸入を避ける。

消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護

消火者は必ず適切な保護具(耐熱着衣、保護眼鏡等)を着用し、空気呼吸器等を装備する。(酸欠及び有毒ガスから身を守る)消火活動は十分距離をとって、風上から行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

ばく露防止の為、作業の際には適切な保護具を着用する。

眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

密閉された場所に入るときは換気する。

漏れ発生時(噴出時)には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。

付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。

着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしないこと。

引火性が高い蒸気。着火源を取り除く。禁煙。

環境に対する注意事項

河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意すること。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

必要であれば、関係省官庁等へ速やかに連絡する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

乾燥砂等の不燃性のものに吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収し、後で処理する。

(吸収したものを集める際には清潔な帯電防止工具を用いる。)

衝撃・静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。

蒸気発生が多い場合は噴霧注水で蒸気発生を抑制する。

付着物、廃棄物などは関係法規に従い処理すること。

二次災害の防止策

付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。

漏出物を取り扱うとき用いる全ての設備は接地する。

火花を発生しない工具を使用する。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

情報なし

局所排気・全体換気

換気のよい場所で取り扱う。(酸欠に注意)

取り扱う場合は、局所排気内、又は全体換気の設備のある場所で取り扱うこと。

密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を付けて作業すること。

室内・玄関や自動車内等狭い場所で使用しないでください。

ベランダ等で使用する場合、噴霧粒子が室内に流れて入り込まないように注意してください。

二酸化炭素は空気より重く、低い場所に滞留しやすい。二酸化炭素を使用するにあたっては、空気中の酸素濃度が低くなる危険性がある。

安全取扱注意事項

全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。

室内で大量に使用しない。

使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。

周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。禁煙。

温度が高くなる場所に置くと、容器が破裂する恐れがある。

ミスト(エアロゾルミスト)を吸入しない。

顔の近くで使用しない。

着衣のままその衣服に直接スプレーをしない。

人体用ではないので、人に向けて使用しない。

ベランダ等で使用する場合、噴霧粒子が室内に流れて入り込まないように注意する。

飲食物、食器、小児のおもちゃ等にスプレー噴霧粒子がかからないようにする。

乾くまで(30分以上)換気のよい場所に置く。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
ばく露防止の為、保護具を着用して作業を行う。
長時間のばく露は避けること。
妊娠中又は授乳中の女性はこの製品を取り扱ってはならない。
休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。
取扱後は手洗い等を十分に行い、衣服に付着した場合は着替える。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の取扱いをしてはならない。
この製品を取り扱う際に、飲食または喫煙をしないこと。
混触禁止物質と接触しないように注意する。
火の中には絶対入れない。
ファンヒーター、暖房機のそばには置かない。

接触回避

「10.安定性及び反応性」を参照。

衛生対策

取扱後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
妊娠中や授乳中の女性はこの製品を取り扱ってはならない。
子供やペットは、衣類、布が乾くまで近づけない。
乳幼児・高齢者・肺等の呼吸器系機能が低下している人の周辺では使用しない。

保管

技術的対策

情報なし

混触禁止物質

「10.安定性及び反応性」を参照。

保管条件

幼児の手の届かない所に置くこと。
直射日光を避け、通風の良い所に保管する。
缶が錆びて内容物が漏出、又は噴出する恐れがある為、水回り等の湿気の高い所での保管を避けること。
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。
ファンヒーター、暖房機のそばには置かない。
電子調理器上で使用、保管しない。
40℃以上になるところに置かないこと。
混触禁止物質と接触並びに同一場所での保管を避ける。
長時間の置き忘れに注意する。
その後、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。

容器包装材料

高圧ガス保安法等の法令で規定されている容器を使用する。
容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。爆発を伴って残留物が発火する事がある。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

換気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。(空気中の酸素濃度が18vol%未満にならないようにすること。)

扱い場所の近くには、洗眼及び身体洗浄の為の設備、機器又は局所排気装置を使用し、高温、発火源となるものが置かれぬような設備とすること。

屋内作業の場合は、作業者が直接ばく露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備とする。

タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付ける。

保護具:必要に応じて着用する。下記保護具は推奨であり、選定には保護具メーカーや専門家等の意見を聞いて行ってください。

呼吸用保護具

有機ガス用防毒マスク、防塵マスク、(密閉された場所では)送気マスク

手の保護具

保護手袋(耐溶剤性)。

眼の保護具

保護眼鏡(ゴーグル型、側板付等)、保護面。

皮膚及び身体の保護具

帯電防止の保護衣、通電性の靴、前掛け等(耐溶剤性)。

衛生対策

保護具は清潔で有効なものを使用する。

作業中は飲食、喫煙をしない。

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

	内容液	噴射剤(二酸化炭素)
物理化学的状態	液体	ガス状
外観	無色透明	気体:無色、無臭、水分と作用して弱い酸味と刺激臭を呈す 液体:無色透明 固体:半透明、乳白色
臭い	特異臭	無臭
pH	該当しない	3.7(25°C、0.1013MPa、飽和水) ※HSDB(2008) 4.5(常温、0.103MPa、飽和水) ※食品添加物公定書、局方二酸化炭素
融点・凝固点	データなし	-56.6°C(三重点、0.518MPa abs)
沸点、初留点及び沸点範囲	82.5°C(イソプロピルアルコール)	-78.5°C(昇華点)
引火点	12°C(密閉式イソプロピルアルコールとして)	なし(不燃性)
蒸気圧	データなし	1.967MPa abs(-20°C) 3.485MPa abs(0°C) 5.733MPa abs(20°C)
蒸気密度	データなし	1.977kg/m ³ (0°C、0.1013MPa)
比重	0.79(20°C)	液体密度:1.030kg/L(-20°C、1.967MPa)
溶解度	情報なし	1.713 l CO ₂ /L H ₂ O(0°C、0.103MPa) 1.194 l CO ₂ /L H ₂ O(10°C、0.1013MPa) 0.878 l CO ₂ /L H ₂ O(20°C、0.1013MPa)
n-オクタノール/水分配係数	0.05(イソプロピルアルコールとして)	log Pow 0.83
自然発火温度	399°C(イソプロピルアルコールとして)	なし(不燃性)
粘度	データなし	14.9 μPa·s(25°C、0.103MPa)
その他	データなし	限界温度:31.1°C 限界圧力:7.382MPa abs 固体密度:1.566kg/L(-80°C)

着火試験結果:前回SDS作成時着火試験結果75cm以上と同等とする。

10. 安定性及び反応性

反応性及び化学的安定性

40℃以上になると破裂の恐れがある。

常用温度で缶内圧は約0.5MPa。

静電気が発生すると引火爆発の危険性がある。

高温の表面、火花又は裸火により発火する。

危険有害反応可能性

高压ガスが入っている。加熱、衝撃等により破裂する危険がある。

二酸化炭素は水との共存により酸性を呈し、鋼材を腐食する。更に酸素との共存や高压下では腐食が進む。

イソプロピルアルコールは酸化剤や過酸化剤との接触で火災や爆発の危険性がある。高温においてアルミニウムを腐食する。

シリコーンは、水及び酸、アルカリ化合物と穏やかに反応する。

避けるべき条件

高温多湿な場所での保管及び火気(火炎、スパーク等着火源)の近くでの使用。

衝突を避ける。

直射日光を避ける。

混触危険物質との接触を避ける。

静電気との接触

高温の物体

避けるべき材料

可燃性物質(木材、油、紙等)

混触危険物質

酸化剤、過酸化剤、強酸化剤、水、酸、アルカリ

危険有害な分解生成物

燃焼等により有害なガス(一酸化炭素、二酸化炭素、硝酸ガス、亜硝酸ガス、不完全燃焼により生成する微量の炭素化合物、二酸化ケイ素、フッ素化合物、ホルムアルデヒド、アミン類等)を発生する。

シリコーンは、水及び酸、アルカリ化合物と穏やかに反応する。

シリコーンは、加熱又は燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素等の酸化炭素、不完全燃焼により生成する微量の炭素化合物、二酸化ケイ素、フッ素化合物、ホルムアルデヒド(150℃以上で酸化分解により少量発生)。アミン類。

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

局所効果

眼に対する重篤な損傷・刺激性

加減方式が適用できる成分からの判定:眼区分2Aの成分合計が濃度限界(10%)以上のため、区分2Aに該当。

生殖毒性

該当成分が≥3%のため、区分2に該当。

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

該当成分が≥20%のため、区分3(気道刺激性)に該当。

該当成分が≥10%のため、区分1(中枢神経系、腎臓、全身毒性)に該当。

該当成分が≥1%のため、区分2(中枢神経系、全身毒性)に該当。

区分2:(中枢神経系)は、上位区分の区分1:(中枢神経系)へ纏めた。

区分2:(全身毒性)は、上位区分の区分1:(全身毒性)へ纏めた。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

該当成分が≥10%のため、区分2(脾臓、血管、肝臓)に該当。

該当成分が≥1%のため、区分2(血液系)に該当。

12. 環境影響情報

生態毒性データなし
残留性・分解性データなし
生体蓄積性データなし
土壤中の移動性データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

廃棄をする場合には、ガスを完全に抜いた後に行う。
許可を受けた産業廃棄物業者と受託契約をして処理すること。
中身が出なくなるまで使い切った後でも破裂する恐れがあるのでそのまま火中に投じないこと。
関連法規制並びに地方自治体等の基準に従って適切な処分を行う。
※内容液は焼却処理するとフッ素ガス及び微量のシリカが生成するので適切な設備での焼却処理をしてください。必要に応じて防塵マスク等の適切な保護具を着用する。

14. 輸送上の注意

「7.取扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

特別の安全対策

運搬に際しては容器を40℃以下に保ち、転倒、落下、破損がないように積込み、荷崩れの防止を確実に行う。

国内規制

陸上輸送: 消防法ほか法令の輸送について定めるところに従う。

海上輸送: 船舶安全法に定めるところに従う。

海上汚染物質: 該当しない。(データがない為)

航空輸送: 航空法に定めるところに従う。

緊急時応急措置指針(容器イエローカード)番号: 126

国際規制

陸上輸送: (ADR/RIDの規定に従う)

国連番号: 1950

品名: エアゾール

国連分類: 2

陸上輸送: (IMOの規定に従う)

国連番号: 1950

品名: エアゾール

国連分類: 2

航空輸送: (IGAO/IATAの規定に従う)

国連番号: 1950

品名: エアゾール

国連分類: 2

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

有機則 第2種有機溶剤等

イソプロピルアルコール

名称表示危険/有害物(令18条)

イソプロピルアルコール

名称通知危険/有害物(第57条の2、令第18条の2別表9)

イソプロピルアルコール

化審法

優先評価化学物質

イソプロピルアルコール

船舶安全法

高压ガス

航空法

高压ガス

高压ガス保安法

適用除外(液化ガス・可燃性ガス・圧縮ガス)

但し、政令告示並びに高压ガス保安一般規則規定に従う。

消防法

第4類 アルコール類

海洋汚染防止法

Z類: イソプロピルアルコール

有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律

家庭用エアゾール製品(メタノール5wt%以下)

地球温暖化対策の推進に係わる法律

温室効果ガス(二酸化炭素)

16. その他の情報

参考文献

原液SDS

各種原料SDS

液化石油ガスSDS

化学物質管理促進法対象物質全データ

労働安全衛生法対象物質全データ

毒劇及び劇物取締法対象物質全データ(化学工業日報社)

責任の限定について

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

十分な情報が得られなかった成分については、全ての項目を分類できないとしております。

2016年6月1日改正の労働安全衛生法に則して作成されたものです。ただし、有害性情報につきましては、現時点における弊社の最善の知識をもって、通常可能な範囲で調査した結果に基づくものです。